

## 第6回地方独立行政法人西都児湯医療センター評価委員会 会議要録

日 時 平成28年1月26日（火）午後6時00分～6時50分  
場 所 西都市役所議会委員会室  
出席者 黒木正善委員長、落合秀信副委員長、岩本直安委員、  
黒木隆子委員、水田祐輔委員  
【市役所】 中武康哲地域医療対策室長、  
佐藤武志地域医療対策室室長補佐、  
津曲晋也地域医療対策室室長補佐、  
金丸修二地域医療対策室地域医療対策係長  
【医療センター】 長田直人理事長、安藤敏和事務局長  
永野淳二総務課長

### 会議経過

- 1 開会
- 2 委員長あいさつ
- 3 議事

#### (1) 地方独立行政法人西都児湯医療センター中期計画（案）について

発言者	内 容
委員長	本日の議題は、「地方独立行政法人西都児湯医療センター中期計画（案）について」の1件です。 事務局から説明をお願いします。
市事務局	地方独立行政法人が作成します中期計画については、昨年8月5日に開催しました第5回評価委員会において、本年度当初にセンターから提出された中期計画案に修正を加えたものを「相当とする。」というご意見をいただいています。 その後、医療センターにおいて、昨年9月1日付

発 言 者	内 容
	<p>けで内科医師1名を採用され、また、来月2月1日付けでさらにもう1名の内科医師を採用することが予定されています。</p> <p>したがいまして、平成28年4月1日の地方独立行政法人スタート時点で、常勤医師が理事長を含めて5名となります。このことを受け、中期計画の見直し案が提出されましたので、ご審議いただきますようお願いいたします。</p> <p>修正箇所など、修正案の具体的な内容については、医療センターから説明をいただきます。</p>
医療センター事務局	<p>地方独立行政法人設立時の4月1日時点で、常勤医師が5名体制でスタートすることができる見込みとなり、今回の中期計画案の見直しを行うことになりました。</p> <p>平成27年9月1日付けで膠原病・感染症内科医師1名を採用し、今年の2月1日付けで循環器内科医師1名の採用を予定しており、4月1日時点で理事長を含め常勤医師5名体制となる見込みです。現在の中期計画（案）では、平成30年度までに医師5名体制とする計画でした。新しい中期計画（案）では、常勤医師を7名まで増やす内容に変更しています。</p> <p>常勤医師数を変更することにより、影響の出る指標の修正を行っています。変更内容について、それぞれ年度ごとの説明を「中期計画案の指標の変更内容」の資料に基づき順次説明します。変更した箇所につきましては、朱記しています。</p> <p>常勤医師数は、平成28年度目標数を4名から5名</p>

発 言 者	内 容
	<p>に変更しています。平成29年度に救急対応を専門とした内科医 1 名、平成30年度に脳外科医 1 名を採用する計画に変更しています。なお、看護師数については、患者数の増加に対し、現在の中期計画における人数で問題ないため、変更していません。</p> <p>専門医、認定医等資格取得数は、平成27年 9 月採用の内科医師の専門医、認定医の資格数を平成28年度目標数に加算し、平成28年 2 月採用予定の医師の資格数を平成29年度の目標に追加しました。その結果、平成28年度は 6 を10に、平成29年度は 7 を12に変更しています。具体的な内容としては、平成28年 2 月採用予定の医師が持つ循環器専門医と総合内科専門医が追加見込みとなっています。</p> <p>常勤医師数増加により、入院、外来ともに患者数の増加を見込み、病床利用率は、平成28年度は49.5 を54.9に、平成29年度は54.9を60.4に、平成30年度は54.9を65.9に変更しています。新規入院患者数は、平成28年度は930を1,000に、平成29年度は1,030を1,100に、平成30年度は1,030を1,200に変更しています。1 日あたりの外来患者数は、常勤医師の負担軽減を図っていくことから大幅な増加は見込まず、平成28年度は45を53に、平成29年度は51を59に、平成30年度は51を65に変更しています。</p> <p>医業収支比率と経常損益は、平成28年度と平成29年度で救急対応を専門とした内科医 1 名の採用による医業収益の増加を8,500万円と見込み、平成30年度は診療単価の高い脳外科医 1 名の採用により1億1,600万円の増収を見込み、それぞれ資料のとおり</p>

発 言 者	内 容
	<p>変更しています。</p> <p>医療機器等の整備・更新は、当初、3年間の間に耐用年数が切れても使用可能なものは除外しておりましたが、計画的な整備・更新の観点から見直しを行いました。</p> <p>予算は、収入について、医業収益が4億4,450万円増えますが、運営費負担金収益が1,737万6千円の減収となるため、合計で4億2,715万4千円の増収になります。支出については、給与費、材料費などの営業費用が増え、全体として4億1,682万円増える見込みで、差引収益を2億8,437万7千円から2億9,471万円に変更しています。</p> <p>収支計画は、医業収益が3年間で約4億3,000万円増えますが、医業費用の中で特に材料費が2億円、給与費が8,000万円、減価償却費が9,700万円増えますので、差引利益を約6,000万円の増にとどまる見込みに変更しています。運営費負担金は、平成26年度の補助金額に基づいて算定していたものを平成27年度の補助金額に基づいて算定したものに変わっています。</p> <p>資金計画は、3年間の資金収入37億3,624万円に対し、支出が34億5,053万円で、次期中期目標の期間への繰越金は2億8,571万円となる見込みに変更しています。</p>
委員長	ご意見・ご質問等があればお願いします。

発 言 者	内 容
委員長	常勤医師数の増加により医業収益が約4億3,000万円増えるということですね。
医療センター事務局	はい、そうです。
委員長	医療機器等の整備・更新は、約1億円の医療機器が追加されてるが、次期繰越金の額はあまり変わらないということですね。
医療センター事務局	はい、そうです。
医療センター理事長	<p>補足説明をさせていただきます。</p> <p>4月から常勤医師が5名になり、中期計画期間中に2名増やす予定です。脳外科医師を望んでいる理由は、現脳外科常勤医師がかなり過酷な勤務をされており、これを改善するためには中期計画期間中に宮崎大学医学部から1名措置してもらう必要があります。中期計画期間中に救急搬送される患者の受入を200人増やそうと計画していますが、平成27年の1月から12月の救急搬送件数で見ますと、75人増えています。この数字は、宮崎市に搬送されている患者数の減少とほぼ同数で、宮崎市に流出していたものを医療センターで対応することができたと思っています。流出率で見ますと、転院搬送を含め、およそ45%を40%まで減らすことができました。増えた75人中、脳疾患の患者が20人ほどで、負担が増えて</p>

発 言 者	内 容
	<p>いるにもかかわらず、200人増の計画に向けてさらに頑張ろうとしています。以前にはなかったことですが、この年末においても、稼働病床65床に対して63床を超える入院が続きました。常勤医師が望ましいのですが、非常勤医師でも宮崎大学医学部に要請をしていかなければならないと考えています。これは、単に医師を1名増やすというレベルの話ではなく、切実な問題だと思っています。</p> <p>内科医については、救急ができる内科医、救急を積極的に取り組む内科医が望ましいと思っています。可能であれば、宮崎大学医学部の救命救急センターから救命救急医を、まずは非常勤からでも良いのでお願いできないかと考えています。2月から1名の常勤内科医が加わることで、現在の19時から23時の夜間内科診療がほぼカバーできる体制になります。現内科常勤医から現体制で完全にカバーできる体制の提案がありますが、現状でも、月に8回ほどの当直をし、その内2回は24時間の勤務をしていますので、これ以上の過酷な勤務状態は好ましくないと思っています。救急に特化して精力的に診療してもらえる若手内科医が必要だと考えています。現在、外科においては、深夜帯にも毎日待機してもらっていますが、深夜帯は内科系の患者が多く、大きな事故等の外科系の患者は年間30人ほどです。外科医が当直に来てもらっていることは大変ありがたいことですが、内科系の不十分な夜間内科診療を充実させていくためには、内科医の確保が重要だと考えています。</p>

発 言 者	内 容
委員長	<p>他にご意見等がなければ、「地方独立行政法人西都児湯医療センター中期計画（案）について」は本日提案された修正案を「相当とする。」ことにします。</p>
市事務局	<p>ただいま、本修正案が法人の中期計画として「相当」との、意見集約をいただきました。</p> <p>本計画案の今後の取扱いについては、4月1日の法人設立後の理事会で正式決定され、市長へ認可申請がなされた時点で、黒木委員長から当評価委員会のご意見として、本日の審議結果であります「相当である。」旨の意見書の提出をお願いすることになりますので、委員の皆様方のご了解をお願いしたいと思います。</p>
委員長	<p>特にご意見等がないようですので、事務局からの説明のとおり取り扱うことにします。</p>

4 その他

特になし

5 閉会